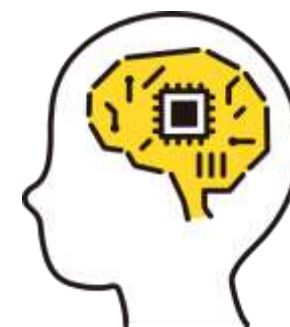


言語生成AIの発展による大学生の キャリア変化の把握



中京大学 内田ゼミ

新井隆生 中谷修也 宮本健太郎 渡辺光稀



目次

1. 人工知能(AI)について
2. 研究目的
3. 先行研究
4. 仮説
5. 分析方法
6. 分析結果
7. まとめ(結論・今後の発展・参考文献)

1.人工知能(AI)について

1. 人工知能(AI)について

定義

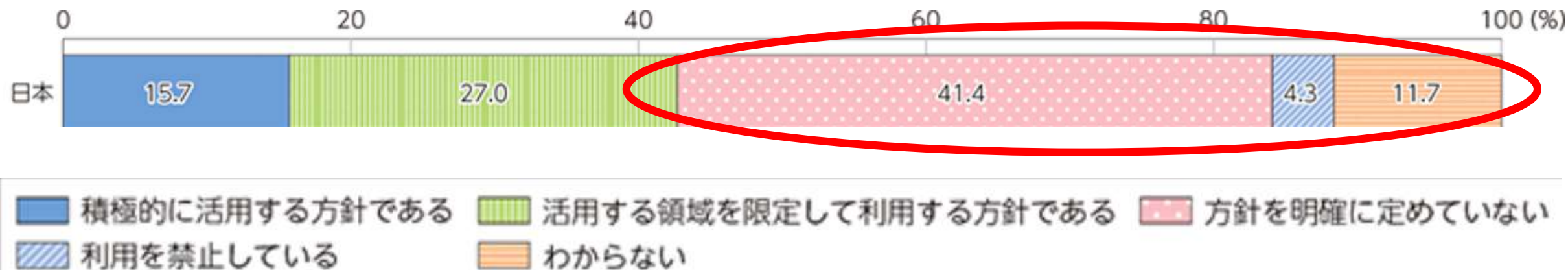
「大量の知識データに対して、高度な推論を的確に行うことを目指したもの」

1. 人工知能(AI)について

歴史

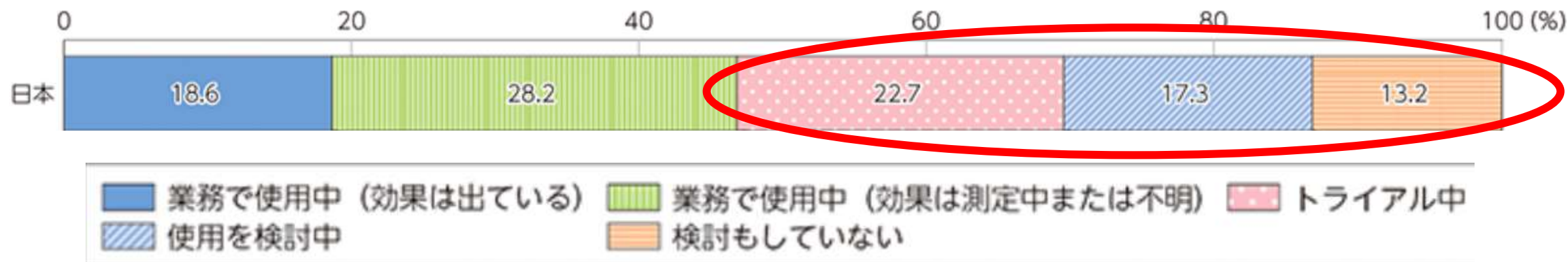


1. 人工知能(AI)について



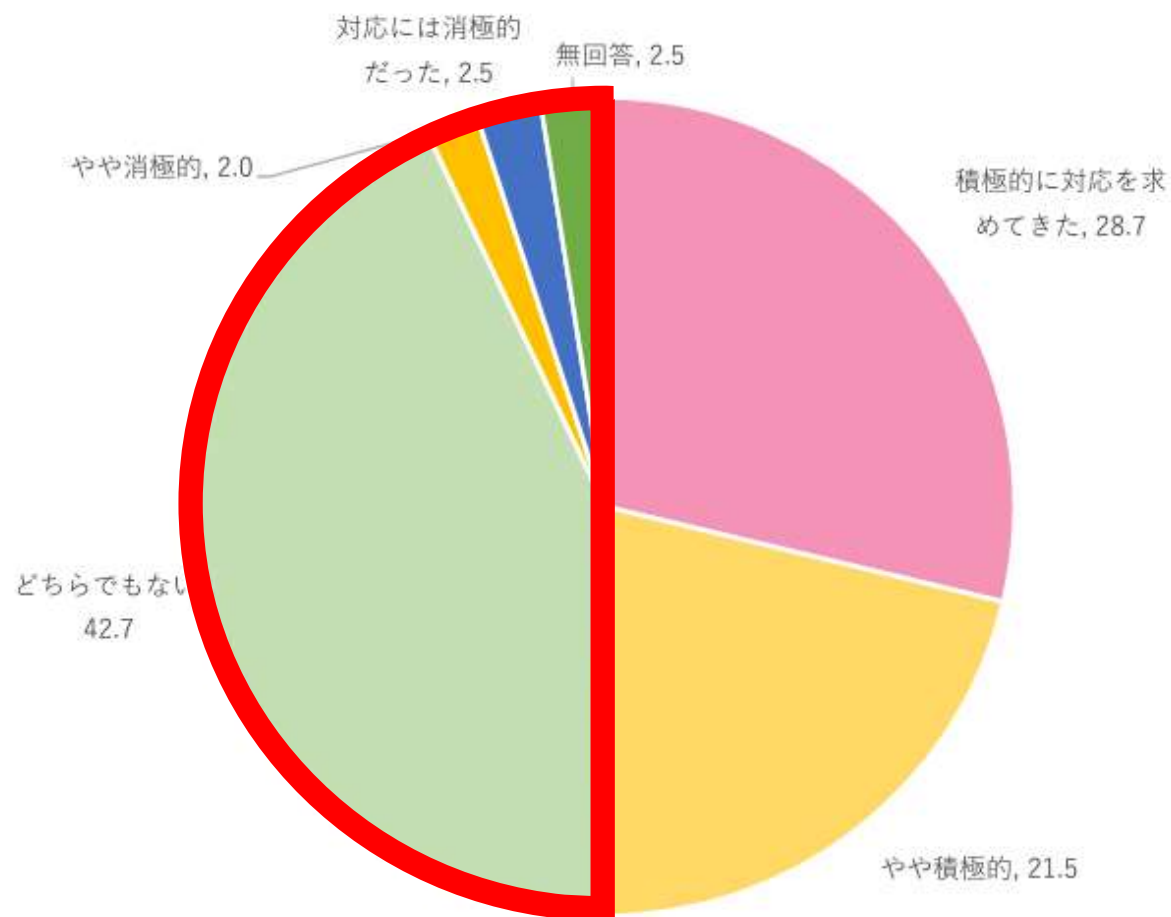
**約60%の職場では
業務でAIを活用する方針が定まっていない**

1. 人工知能(AI)について



約50%の職場では実際の業務でAIが使われていない

1. 人工知能(AI)について



**約50%が
「どちらでもない」
「消極的」な意見**

1. 人工知能(AI)について

職場への導入

- 活用方針が定まっておらず、業務への導入件数も少ない

導入に対する意見

- 「どちらでもない」、「消極的」な意見が半数近い

2. 研究目的

2.研究目的

目的

現時点で人工知能(AI)が持つ
大学生への影響力を知る

2.研究目的

対象

ChatGPTを代表する言語生成AIに絞る

3. 先行研究

3. 先行研究

調査内容：データサイエンスやAI教育が学生のキャリア形成にどのような影響を与えるのか

* キャリア形成：データサイエンス・AI を使って社会貢献したいという気持ちを身につけること

結果：講義を通してAIを扱う仕事に就きたいと考えるようになった

橋弘毅, 尾島茂樹, 原弘忠, 河合孝純, 山口敦子, 大前佑斗

「人工知能・データサイエンスに関する講義が動機付け・キャリア形成に与える影響の分析」(2024.6)

4. 仮説

4. 仮説

人工知能(AI)に触れる機会が身近に少ない。



人工知能(AI)の影響から、
大学生は**キャリア選択を変更しない。**

4. 仮説



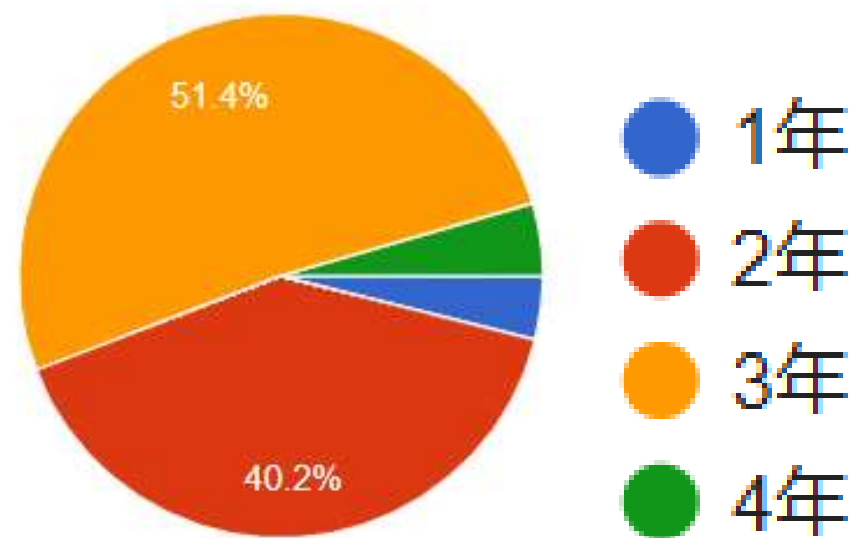
62%の大学で教員が不足している

5.分析方法

分析方法

アンケートを実施

- 方法：google formで集計
- 期間：2024年 10月17日~10月31日
- 対象：中京大学生
- 人数：176名



分析方法

質問内容(就職活動について)

企業の要素をどの程度重視するか知る質問(1/2)

長期的な安定性

将来の成長性

自分が成長できるか

分析方法

質問内容(就職活動について)

企業の要素をどの程度重視するか知る質問(2/2)

給料が高いか

やりがいがある仕事か

グローバルな活動ができるか

分析方法

質問内容(就職活動について)

どの程度将来を見据えているかを知る質問

志望業界の将来性を何年先まで考えているか

就職から5年以内に転職することを想定しているか

分析方法

質問内容(就職活動について)

志望する職業の傾向を知る質問

通常業務で英語を使用する仕事に就きたいか

分析方法

質問内容(言語生成AIについて)

言語生成AIとどの程度関わりがあるのかを知る質問

どの程度興味関心があるか

言語生成AIアプリの1週間あたり使用時間

分析方法

質問内容(言語生成AIについて)

言語生成AIの今後5年の成長の評価具合を知る質問

英語を使用する業務をどの程度任せれるようになるか

志望業界にどの程度影響を及ぼすのか

志望業界の雇用は減少するか

分析方法

質問内容(言語生成AIについて)

キャリア選択の意向を知る質問

言語生成AIの影響から志望業界は変更するか

5.分析手法

目的変数

言語生成AIの影響から志望業界は変更するか

5.分析手法

多重共線性

互いの説明変数間に高い相関関係がある状況

5.分析手法

説明変数

- 通常業務で英語を使用する仕事に就きたいか
 - 自分が成長できるか
 - AIが志望業界にどの程度影響を及ぼすのか
- の項目を削除**

6.分析結果

6.分析結果

目的変数：志望業界を変更するか

説明変数	P値	回帰係数
志望業界の雇用を減少させるか	0.000	0.3762
企業のグローバルな活動を重視する	0.004	0.1777
英語を使用する業務をどの程度任せられるようになるか	0.041	0.1643
言語生成AIアプリを一週間にどの程度利用するか	0.029	0.1460

6.分析結果

因子分析

説明変数間に共通する特徴を特定

6.分析結果

	特徴
第1因子	業界の将来性・安定性
第2因子	グローバルな活動
第3因子	企業の環境
第4因子	AI技術の影響

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
該当する学年	0.110587	-0.114298	0.126108	0.195764
長期的な安定性	-0.304239	-0.584411	-0.461676	0.02908
将来の成長性	-0.648678	-0.279877	-0.071992	0.07006
自分が成長できるか	-0.786963	-0.059589	0.432678	-0.007667
給料の高さ	-0.489447	-0.372477	-0.260375	-0.042696
働くやりがい	-0.669282	-0.098856	0.047529	0.046819
グローバルな活動	-0.616956	0.436106	-0.360696	0.130817
志望業界の将来性はどれ程先まで考えているか	0.00269	-0.304846	0.017248	0.192652

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
今後5年以内に転職することを想定して就活するか	-0.055539	0.331385	0.047601	-0.006193
通常業務で英語を使用する仕事に就きたいか	-0.487402	0.488956	-0.254253	0.069367
言語生成AIについて興味関心があるか	-0.156031	0.115347	-0.086948	-0.149239
言語生成AIアプリを1週間にどの程度利用するか	0.13063	0.058917	-0.10898	-0.132847
業務をどのくらい言語生成AIに任せる	-0.057093	-0.106291	-0.107853	-0.351593
業界に言語生成AIが影響	-0.136714	0.02585	-0.093056	-0.704832
業界全体の雇用が減少	-0.27497	0.125159	-0.006605	-0.49984

7.まとめ

➤ 結論・今後の発展・参考文献

まとめ 結論

仮説

- 現在の大学生がキャリア選択を変更するほど、人工知能(AI)の影響を受けていない



結論

- 「AIの利用度合い」「雇用減少」「グローバルな活動」は特に**キャリア変更に影響を与えている**

まとめ 今後の発展

分析対象

- 大学生の所属している学部ごとの傾向を見る
- 分析対象を社会人に設定して分析を行う

まとめ 今後の発展

分析について

- 因果関係の検証
- 説明変数を追加を検討する
- 分析モデルの改善

まとめ 参考文献

- **一般社団法人人工知能学会**：一般社団法人 人工知能学会 定款
https://www.ai-gakkai.or.jp/about/about-us/jsai_teikan/
- **総務省**：令和6年版 情報通信白書 | AI進展の経緯
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd131100.html>
- **総務省**：令和6年版 情報通信白書 | 企業向けアンケート
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r06/html/nd151120.html>
- **厚生労働省**：AIなどデジタル技術の導入と労使コミュニケーションに関する調査
<https://www.mhlw.go.jp/content/12602000/000684324.pdf>
- **文部科学省**：第2回ワークショップ 学生とつくるデータサイエンス教育～アクティブラーニングのための教職学・産学連携「数理データサイエンスAI教育の動きや現状」
http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/ws20230127_lecturenote01.pdf

ご清聴ありがとうございました

